

ホッケー競技における安全面の留意点

埼玉県高体連ホッケー専門部 皆野高校 千島 拓実

0. ホッケーについて

ホッケーは、サッカーによく似たゲームであり、1チームがゴールキーパー1名と、フィールドプレイヤー10名の合計11名で構成される。試合は、縦91.4m、横55mのコート(図1)で、クォーター制(15分×4)で行われる。サッカーと大きく異なる点は、スティックと呼ばれる道具を使用すること、得点を挙げるための区域が制限されることであり、サークルと呼ばれる半円の中からのシュートしか得点が認められず、サッカーのようなロングシュートが起こることはない。

ホッケー競技は、硬質のボールを、スティックで操作しゴールを奪い合う(図2)ことで競技が展開するだけに、ルールにおいても危険防止や安全確保は厳しく規定されている。さらに、高度な判断力と基本的な技術が強く要求される競技といえる。また、高校入学後に初めて経験する生徒も多く、競技人口も多くないため、基本技術が未熟な状態でも公式戦に出場するケースもあり、災害発生の可能性が高いのが現状である。

フィールド

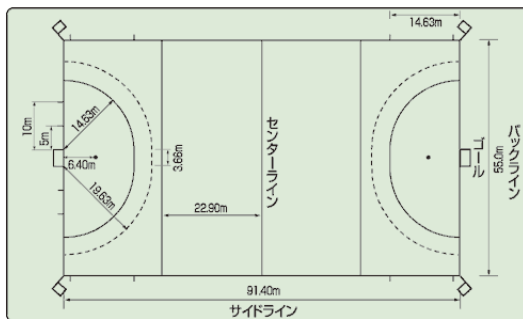


図1 <https://www.hockey.or.jp/rules/hockey/kaisetsu/>



図2 スティックを使いゲームが行われる

1. 埼玉県におけるホッケーの現状

(1) 高校チームについて

・飯能高校 ・飯能南高校 ・皆野高校 ・慶応義塾志木高校 ・聖望学園高校 5校

(2) 大会について

・4月 関東大会1次予選
・5月 学総体兼関東大会2次予選
・8月 国体関東ブロック予選
・10月 選抜予選 → 関東選抜 → 全国選抜
・1月 新人大会

} 関東大会 → インターハイ

2. 練習・試合等で生じる事故について

(1) 実施場所による事故

・主に人工芝で競技が行われるため、手、肘、膝等に裂傷や擦過傷を負う危険性を伴う。

(2) 使用器具・道具による事故

・スティックやボールが体に当たり、打撲・骨折、歯牙障害などの危険性を伴う。

(3) 競技の特性による事故

・ボールスピードが速く、運動量が多いため、熱中症や脱水症状が起こる危険性を伴う。

・低い姿勢を維持しなければならないため、慢性的な腰痛等を引き起こす危険性を伴う。

など、ケガが多いスポーツであると考えられる。

3. 安全対策について

(1) 実施場所による事故の予防

- ・スライディングや転倒の際、摩擦によるやけどや擦り傷防止のため、競技が行われる前には、必ず散水を行う。
- ・試合前、アンパイアによるゴールの安全点検を行う。

(2) 使用器具・道具による事故の予防

- ・使用するスティックにひび割れ、穴等の破損がないかのチェックを行う。
- ・フィールドプレイヤーは「すね当て」「マウスガード」の着用を義務付けている。
- ・ゴールキーパーの防具について、破損、不備等がないかチェックを行う。
→上記3つに関して、公式戦時にはアンパイアによるチェックが必ず行われる。
- ・セットプレーの際、フィールドプレイヤーはフェイスマスク等の防具を使用する。
- ・ボールにひび割れがないかチェックを行う。
→試合時には、常に新しいボールを使用する。

(3) 競技の特性による事故の予防

- ・フィジカルコンタクトの多い競技であるため、しっかりとした基礎技術の習得が安全につながる。
- ・試合中けが人が出た場合、アンパイアはケガの症状を問わず試合を止め、ケガの状態の確認を行い、選手交代の必要について判断する。
- ・ボールスピードが速く、運動量が多いため十分な水分補給と休憩が必要となる。エントリーされた選手であれば、試合中何度でも自由に交代できるため、脱水症状予防、疲労回復に役立っている。

参考資料 (日本スポーツ振興センターHP 学校事故事例集から抜粋)

死亡障害種	被災学年	発生場所	発生状況
手指切断 ・機能障害	1	公園・遊園地	ホッケー体育的部活動中、試合の際、見方からの浮いたボールを止めようとしたとき、右環指に当たりスティックとの間に挟まれ負傷した。
歯牙障害	1	運動場・公園(園庭)	ホッケー部の練習中、相手とボールを奪い合っていた際、誤って相手のスティックが歯に強く当たり負傷した。
歯牙障害	2	運動場・競技場	ホッケーの試合中、シュートボールが顔に当たった際、歯が2本折れ、シュート後のスティックが口の横に当たり、口の横を切った。
歯牙障害	3	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部で練習試合をしていた際、相手チームの選手がボールを打つ瞬間に本生徒がスティックを出したところ、ボールが跳ね上がり、本生徒の顔を直撃した。口唇部分に当たり、歯等を怪我した。
歯牙障害	2	運動場・競技場	他の部員のスティックに当たって跳ね返ってきたボールが、顔面に直撃し、歯を負傷した。
歯牙障害	3	運動場・校庭(園庭)	マンツーマンの練習でドリブルをして走っていた際、相手のスティックが口に当たり前歯を折ってしまった。
歯牙障害	1	運動場・校庭(園庭)	試合形式の練習で、相手チームの生徒が放ったシュートボールが味方チームの生徒のスティックに当たり、その跳ね返ったボールが本生徒の口元に激しく当たった。多量出血、前歯の破折がみられた。
歯牙障害	2	運動場・校庭(園庭)	運動場でホッケーをしていて、ディフェンスをしている時に、相手のスティックが口に強く当たった。
歯牙障害	1	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部の練習中に、相手が打ったあとスティックが口唇部に当たり、歯牙を脱臼・歯折、顎を骨折した。
歯牙障害	1	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部の部活動中に、他の部員が素振りをしていたスティックが、口元に強く当たった。
歯牙障害	2	運動場・校庭(園庭)	遠征での試合中にボールの取り合いになり、相手選手のスティックが前歯に当たり、上の歯が2本折れた。
歯牙障害	2	運動場・競技場	ホッケー部活動中、紅白戦を実施していた。本生徒は守備でボールを奪いにしようとしたとき、相手がパスを出した。そのパスの動作でのスティックが本生徒の口に直撃し、負傷した。

事例として掲載されている全21件の内訳

歯牙障害	18件
外貌・露出部分の醜状障害	2件
手指切断・機能障害	1件